

藤前干潟の保全に関する（財）日本野鳥の会並びに関係団体の行動記録 (1987年～1996年)

- 1987年2月 「名古屋港の干潟を守る連絡会」結成
・愛知県支部、岐阜県支部が参加
- 1987年3月 名古屋港の干潟を守る連絡会 要望書提出
- 1987年7月31日 ICBP（国際鳥類保護会議、現バードライフインターナショナル）
理事長クリストフ・イムボーデン名で名古屋市長宛に要望書提出・
計画見直し、代替案検討を要望
- 1987年10月19日 名古屋港の干潟を守る連絡会 環境庁長官宛に要望書提出
・藤前干潟の重要性に対する理解と保全に向けての適切な判断を
要望
- 1987年11月20日 名古屋港の干潟を守る連絡会、名古屋市環境事業局局長宛に抗議文
提出
・「伊勢湾には藤前干潟以外にも8ヶ所1800ヘクタールの干潟が
あり、藤前干潟が失われても野鳥の生息にあまり支障はない」と
の発言に抗議
- 1989年8月 国際水禽湿地調査局日本委員会（本会事務局）、「特に水鳥の生息地
として国際的に重要な日本湿地目録」（IWRB）発表
・ラムサール条約に登録すべき国際的に重要な湿地として「藤前・
庄内干潟他伊勢湾奥部」を国内24ヶ所の1つに登録
- 1992年5月6日 環境庁長官宛に会長名の要望書「野鳥の生息地として全国レベルで
保護策が必要な湿地の保護について」提出
・特に保護策が必要な19ヶ所の湿地の1つに「伊勢湾奥部・藤
前干潟」を選定。保護区等への指定、ラムサール条約登録湿地
への指定を要望
- 1992年8月 「藤前干潟の全面保全要望書」を会長名で提出。名古屋市長、愛知
県知事、名古屋港管理組合管理者、運輸大臣、厚生大臣、環境庁
長官宛
- 1996年9月5日 「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分
場設置事業に係る環境影響評価準備書」についての意見書を会長
名で名古屋市長宛に提出
・代替案の検討が十分行われていないこと、藤前干潟の重要性が
正当に評価されていないことを指摘。自然、生活、文化の面か
らの再評価を要望